

兵庫県立森林大学校 令和7年度学校評価

1 学校の教育目標

人材の養成	(到達目標)
(1) 森林林業の即戦力となる人材の養成	課題に対して、自ら考えて、安全かつ効率的に現場作業が実施できる。
(2) 森林林業の次代のリーダーとなる人材の養成	幅広い視野を持って将来を見通すとともに、状況の変化や課題に対し柔軟かつ計画的に判断と行動ができる。
(3) 多自然地域に居住し、地域貢献する人材の養成	地域社会の一員としての自覚を持ち、地域振興や課題の解決に貢献できる。

2 本年度に定めた重点目標

区分	本年度に定めた重点目標	評価項目	達成状況【1:目標を上回った、2:おおむね目標どおりできた、3:目標を下回った】			
			達成状況	実績等	課題や今後の改善方策等	有識者会議等での意見
重点目標	ア 意欲ある学生の確保	令和8年度専攻科入学生(10期生)の確保 20人	2	<p>・3/1現在(3月入試除く): 17名出願、うち16名合格</p> <p>(経過)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月入試:自己推薦により1名出願、1名合格 ※入学辞退</li> <li>・10月入試:学校推薦(指定校含む)により3名出願、3名合格</li> <li>・12月入試:自己推薦により9名出願、9名合格</li> <li>一般により4名出願、3名合格(出願した1名は当日欠席)</li> <li>・3月入試:自己推薦により2名出願(試験日は3/15)</li> </ul> <p>(取組状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレットや学生募集要項等について5月末までに作成し、県内及び近隣府県の高校を訪問して学校説明</li> <li>・特に、専門学校や就職を目指す割合が高い高校は、重点的に実施</li> <li>・入学試験の時期を近隣の林業大学校より早く実施</li> <li>・林業系高校3校に指定校推薦枠を設けて入学試験を実施</li> <li>・森林や環境に関心の高い入学対象者やその家族が立ち寄りやすい施設(アウトドアや道の駅など)にポスターやパンフレット等で周知</li> <li>・ホームページやSNS(フェイスブック、インスタグラム等)による発信のほか、森林等に関わるイベントにおける広報活動を強化</li> <li>・都市部等からのUJIターンを希望する社会人に対し、ハローワークや若者サポートステーション、移住相談会等での広報を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレットや学生募集要項等について、専門学校を目指す多くの高校生が進路選択を行う4月末までに作成</li> <li>・高校生の進学先の選択肢になるよう、早期の学校訪問を実施するとともに、専門学校や就職を目指す割合が高い学校への勧誘を継続して強化</li> <li>・都市部等からのUJIターンを希望する社会人に対し、ハローワークや若者サポートステーション、移住相談会等での広報を継続して強化</li> <li>・入学対象者への周知や家族等からの勧奨を促すため、ホームページやYouTube、SNS(フェイスブック、インスタグラム等)による情報発信をするほか、森林等に関わるイベントにおける広報活動を継続して強化</li> </ul> <p>【広報コンテンツの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページのリニューアル公開</li> <li>・YouTube動画配信 <ul style="list-style-type: none"> <li>①本校プロモーションビデオ</li> <li>②名誉校長インタビュー</li> <li>③一次産業に従事する若者対談</li> </ul> </li> <li>・タブロイド紙の配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生確保についてはかなり改善されたが、まだ定員を下回っている。改善方策をあげているが、勝算はあるか。</li> <li>・大学でも学生の確保には苦勞している。高校生では、保護者の意向も強いので、そこに働きかけて、自分たちの子供に、こういう仕事に就かせたいなと思わせることが大切。頑張ってください。</li> <li>・学校の教育目標と重点目標とのつながりがわかるような書き方を工夫して欲しい。</li> </ul>
		オープンキャンパス等の参加者数 30名	1	<p>○オープンキャンパス 4回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①5月18日(日):12名参加(うち入学対象者6名)</li> <li>②7月21日(日):24名参加(うち入学対象者14名)</li> <li>③8月24日(日):37名参加(うち入学対象者20名)</li> <li>④3月8日(日):17名参加予定(うち入学対象者9名)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チェーンソー伐木実演、林業機械やドローン、実習機器の操作体験等のほか、学校概要の説明や個別相談会を開催</li> <li>・7/21は西播磨県民局と連携し、「集まれ林業男子・林業女子in西播磨」として開催。林業事業体の現場でプロセッサやフォワーダの操作体験を行ったほか、昼食時には、シカ肉バーガーの試食等を実施。</li> </ul> <p>○誰でもオープンキャンパス 3回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①11月 9日(日):14名参加</li> <li>②12月24日(水):14名参加</li> <li>③2月 6日(金): 12名参加</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学検討者以外にも森林大学校の学びを知り関係者への勧奨を促すため、校外学習報告会、卒業研究発表会等と併せ、広く一般県民や事業者等も含め開催</li> </ul> <p>○延べ参加人数130名</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスに参加した人の受験者が多いことから、今後は随時、学校見学・説明を実施する</li> <li>・入学対象者への周知や家族等からの勧奨を促すため、記者発表やホームページ、YouTube、SNS(フェイスブック、インスタグラム等)による情報発信をするほか、森林等に関わるイベントにおける広報活動を継続して強化</li> </ul>	

達成状況【1:目標を上回った、2:おおむね目標どおりできた、3:目標を下回った】

区分	本年度に定めた重点目標	評価項目	達成状況	実績等	課題や今後の改善方策等	有識者会議等での意見
重点目標	イ 林業就業に向けた支援	・2年生の森林林業関係への進路確保 100%	1	○令和7年度卒業生:10名 ・就職:9名 森林組合3名(県内2、県外1)、林業事業者5名(県内3、県外2) 公務員1名(宍粟市役所) ※求人:76社[152人] (R8.2月末現在) ・進学:1名 国立宇都宮大学	・就職先についてより多くの選択肢を知るため、学外就業体験研修の回数を継続して実施 ※年間3回(実施時期:6・7・9月) ・林業事業者等には、学生が就職先を選択するにあたり重視する点について説明	
		・1年生の森林林業の進路に向けた意識醸成 100%	1	・基礎セミナー(15コマ)において、就業志望の個別面談等で指導 ・10～11月に各3日間、林業と木材関係等の2社でインターンシップ ・基礎セミナー等を活用し1年生からハローワーク訪問等実施	・基礎セミナーを通じて、自己を活かす能力の向上を図る ・インターンシップにより、実社会への適応力向上を図る	
		・履修状況 退学0名 留年0名	1	・出席状況や履修態度、課題の提出状況を把握し、留年にならないよう適時適切に指導やカウンセリングを実施した ※令和7年度:退学及び留年は0	・引き続き、学生一人ひとりに細かなフォローアップを実施 ・入学後にマッチングミスとならないよう、オープンキャンパス等において、個別相談や在校生とのフリートーク等の場を設定	・退学ゼロ、留年ゼロというのは、大変なこと。カウンセラーなど学生のフォローアップを以前よりも丁寧にしたのかなと思う。
ウ 学校運営の円滑化	・災害時等の安全対策の充実 2件	1	・体育館が市の避難所に指定されていることを踏まえ、有事の際に学生が率先して活動出来るよう、年度当初にひょうご防災リーダー等の専門家から避難訓練及び避難所運営体験等について指導。 ・森林大学校が土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域に立地していることと踏まえ、法の概要と避難の考え方を説明 ・要配慮者利用施設避難確保計画の策定	・引き続き、災害等を想定した防災マニュアルや避難訓練等を実施		
	・学生生活に関する支援 休学0名	1	・学生生活等を常日頃から観察し、心身の不調を訴える学生に対し、教員が面談を行いフォローするほか、必要に応じ親権者に報告 ・メンタルヘルス対応のためスクールカウンセラーを委嘱し、年4回希望する学生に対しカウンセリングを実施 ・学生のキャリア支援、就職支援を適切に実施 ・シェアハウスを訪問し、災害時等の対応や居住環境等について学生と宍粟市及び大学校で確認	・学生との面談やそのフォローアップ、保護者との連携支援などに関する教職員のスキルを向上し、学生生活への支援が円滑に行えるようカウンセラーによる研修等を実施		
	・森林環境教育や公開講座など大学校の資源を活用した地域貢献等の機能強化 10回	1	・高校との交流授業 6回(山崎高校2回、伊和高校2回、岡山县立高校2回) ・林業事業者等の視察 2回(岡山县1回、熊本県1回) ・宍粟市と連携し、本校学生が執筆した木育新聞を市内中学生に発行(年3回) ・一宮生涯学習推進協議会に参画し、学校紹介及び学生の研究発表を報告書に掲載 ・「トライやる・ウィーク」受け入れ(一宮南中学2年生 4名・5日間) ・宍粟市と連携した地元保育園児を対象とした木育講座の実施 2回	・中学生を対象としたトライやる・ウィークの受入れ機関として登録 ・本庁林務課や農林事務所と連携し、高校への出前授業を強化		

達成状況【1:目標を上回った、2:おおむね目標どおりできた、3:目標を下回った】

区分	本年度に定めた重点目標	評価項目	達成状況	実績等	課題や今後の改善方策等	有識者会議等での意見
重点目標	ウ 学校運営の円滑化	・地域住民との連携や交流、地域貢献の実施 10回	1	・地元の県立伊和高校と連携して合同体育大会を開催し、高校生と交流 ・地元地域や県立国見の森公園などが主催するイベントにスタッフとして参加するなど地域へ貢献(参加イベント:3回) ・森林林業木材に関わる県域(2件)や県民局域(2件)のイベントに出展し、森林大学校をPRするとともに、参加者と広く交流 ・誰でもオープンキャンパス(3回)を開催し、地元住民等に授業を公開	・引き続き、地元との連携や交流などを通じ、地域貢献に寄与	・「こども食堂」を毎月第2土曜日にハリマ農協の旧ふれあい文庫で開催している。高校生以上は協力金200円が必要だが、森林大学校の学生や教職員も利用可能。将来の学生候補がたくさん来るので、案内する。
		・新しい変化への対応等のため、余裕を持った対応ができるよう教職員の働き方改革を推進	2	・テレワーク、多様な勤務時間等の設定を推進 ・超過勤務時間の縮減や計画的年休取得を促進	・兵庫県人材マネジメント方針等を踏まえ、さらなる教職員の多様な働き方改革の推進や業務改善が必要	・教職員の働き方改革が、達成状況2になっているが、教員のきめ細かな学生対応が、一方で過大な負担になっていないか。若い人相手だと、夢中になってしまって、関係が強くなって振り回されてしまうリスクがないかが気になった。
エ 教育活動の充実		・教材研究等学生の学習意欲の向上 2件	1	・卒業研究において、学生自らがテーマを定め、伴走型のサポート体制により能動的な調査研究となるよう授業の進め方を工夫 ・オープンキャンパスや高校との交流授業などでは、学生の役割を明確にし担当を任せることで主体性を向上	・本校教員が担当する科目においても、高い専門性が求められる授業については、外部から必要なスキルを有する講師を招き、授業の質を向上を図る ・授業での理解不足を助けるための補講など、学生の習熟度向上に向けた取組が必要	
		・伐木等安全教育の充実 重大事故ゼロ	1	・林業の事故事例を踏まえ、さらなる安全意識の徹底と安全教育の充実のため、チェーンソーの実習において各班2名の指導體制としてうち1名を安全担当として配置 ・伐倒練習機や風倒木伐採訓練装置による安全教育等を実施 ・外部から労働安全衛生の専門家を招き、研修を実施	・引き続き、伐倒練習機等を活用し、安全教育の徹底を図る	
		・専攻科カリキュラムや自主研修の充実	1	・集落裏等の危険木伐採に関する技術習得に向け、樹上作業の選択科目を新設 ・ドローンの自動航行、撮影した写真のオルソ化処理の実習を充実化 ・OWLや3Dwalkerなど3次元計測装置(スマート林業機器)を活用した実習で学生の学習意欲が向上 ・伐木や造材技術の向上の向け、伐木交流競技会(鳥取県主催)に参加 ・自主研修について、設定日に関わらず意欲ある取組を認定。 ・学校外が主催する研修や最新の知見等について、掲示板に周知し自主学習を促進	・新たに科目を追加し、林業技能検定の支援を拡充	・一般向けの研修の内容に経営のことなどがあつたので、生徒向けにも実施してほしい。2年間で、森林や林業のことを学び、就職や大学進学を目指していると思うが、その先に自分でも経営をやってみたいという学生もいるかもしれない。今、授業で対応されているのかもしれないが、フェーズを上げてほしい。  ・AIは、森林林業関係についても大きく変えて行く可能性が高い。それを重点目標に取り入れられないか。
		・研修科カリキュラムの充実 研修受講者数300名	1	・全体で延べ13科目32日の研修を行い、延347人が受講 ・受講者のニーズを踏まえ、事業者高度化コースのQGIS研修を2日間で基礎、応用を実施する形に変更 ・受講者年齢の多様化を図るため、地域リーダー養成コースで「よるの森の生き物観察会」を新たに実施 ・市町職員研修「森と木を活かす行政能力向上セミナー」を実施 ・主催研修の周知を図るため、文書配布に加えて、HPやInstagramによる情報発信を強化	・さらなる受講者の確保に向けて、受講しやすい環境や周知方法・時期、要望を踏まえた企画が必要	

達成状況【1:目標を上回った、2:おおむね目標どおりできた、3:目標を下回った】

区分	本年度に定めた重点目標	評価項目	達成状況	実績等	課題や今後の改善方策等	有識者会議等での意見
		・学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	2	・業界のニーズに対応するため、有識者会議での意見聴取等を実施	・就業体験先からの意見聴取や卒業生就職先への訪問調査などの機会を活用するなど、多様な方法で把握が必要 ・夏季休暇中に業界や卒業生との意見交換の場を設ける	・業界のニーズに向けて方向づけられているかという点で、実績や課題について、聞き取り範囲が狭いのではないかと感じた。例えば、WEBアンケートのような世の中の流れを把握できるような取組が必要。先ほどから出ているAIも使えると思うし、ニーズの把握をもっと工夫できるのではないかと思った。
重点目標	エ 教育活動の充実	授業評価の実施・評価体制はあるか	2	・研修終了時や年末に学生・研修生に対してアンケートを実施するとともに、常時、学生との会話を通じて意見を吸い上げ、有識者会議で意見交換 ・授業評価アンケート結果は、可能なものからカリキュラムに反映するように配慮	・今後も授業評価アンケート結果は、可能なものからカリキュラムに反映するように配慮が必要	
		教員の資質の向上の取組	1	・エンゲージメント調査(年2回実施)により組織課題等を早期に把握し、その改善に向けた取り組みを実施 ・教員の研究活動、自己啓発等の支援(応用森林学会での発表、林野庁主催研修等への参加、技能講習等への参加及び資格取得の支援等)	・教員に必要な知識や技能を習得させ、その能力及び資質を向上させるための研修の機会を設ける ・授業の内容や方法を改善するための組織的な研修等の実施	
		実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫などが実施されている。	1	・1年次は林業関係と木材関係、両方でインターンシップ研修(2か所6日間)を実施するとともに、2年次は各自就職先を踏まえた事業体で学外就業体験(3か所15日間)を実施するなど、段階を踏まえた職業教育を実施 ・安全教育や技術定着等で、現場のリスクアセスメント、足場や退避場の確認、指差呼称等の基本動作を徹底	・引き続き、学生の学習意欲や能力の向上のため、学生の反応を踏まえた教え方や教材研究などさらなる教育方法の工夫等 ・学生の興味に即したカリキュラムの提供など進路に応じて選択できるよう、選択科目の充実を検討	・卒業後のフォローアップの件だが、前々から申し上げているように、他の林業大学校では、ずっと同じ先生がいる。岐阜だったら、伐木チャンピオンシップで優勝するような先生や、日南や東北の山形などにもずっと同じ先生がいる。フォローアップは、ある意味メンタル的なものなので、初対面の人に、普通、相談できないと思う。兵庫県だけが、先生がコロコロ変わっている。授業一つにしても、先生たちにも蓄積があった上で講義が充実していくと思う。兵庫県も、一度、考えられてはいいか。  ・上記の意見に全く大賛成なので、是非、議事録にこのことを書き残し、毎年、この意見が出ているということを蓄積していただければと思う。  ・フォローアップは、森林大学校できちんとやった方が良いが、卒業生がガス抜きに来てても知らない人には話しづらいだろう。
・インターンシップ等実践教育受入事業体の確保	1	・インターンシップ等の実践教育を20事業体(学外18、インターンシップ2)で受け入れていただき、終了後、受入事業体等の参加を得て報告会を実施し、参加事業体から評価を得た	・引き続き、学生の意向を早めに調査し、マッチングを図る	・林業労働安全の講習会でスタッフをしているが、死亡事故を起こしている事業体は、技量や考え方を聞いていると、ここが事故を起こすのはわかるなという雰囲気がある。死亡事故を起こした直後は、求人を受け付けない、またどこをどう改善したのかを確認するなどして、学生に紹介すべき。		

達成状況【1:目標を上回った、2:おおむね目標どおりできた、3:目標を下回った】

区分	本年度に定めた重点目標	評価項目	達成状況	実績等	課題や今後の改善方策等	有識者会議等での意見
	オ 教育環境の 充実	・企業・団体等との連携強化	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業版ふるさと納税やみなと銀行の寄付金を活用して新技術機器等を導入し、学習内容の充実を図った</li> <li>・株式会社モンベルのイベント(しろう 氷ノ山 SEA TO SUMMIT 2025)に参加・協力し企業との連携に取り組んだ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き企業・団体等との連携を強化</li> <li>・モンベルフレンドショップに登録し、モンベルストアでパンフレット等を配架することにより大学校をPR</li> </ul>	
		・教育環境の機能強化	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R7企業版ふるさと納税等の寄付金及び重点支援地方交付金で教育環境の充実を図った (主な購入品) 高性能チェンソー、実習用ドローン、電子黒板、スポットクーラーほか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、学生や研修参加者の学習環境の充実のため、企業版ふるさと納税等の寄付金を有効に活用</li> </ul>	
		・実習地等の充実	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姫路市有林(夢前町)で災害に強い森づくり現地実習</li> <li>・上野ファーム(香美町)でコンテナ苗の種苗生産実習</li> <li>・兵庫森林管理署と連携し、スギ・コンテナ苗の植栽実習</li> <li>・垣内製材(宍粟市)で木材流通の現地実習</li> <li>・木材利用教育にかかると実習[きみたつラボ(神戸市)、竹中大工道具館(神戸市)、杉原紙研究所(多可町)]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、協定締結先との連携を図り実習地として利用させていただくとともに、新たな実習地等の充実に向け取組が必要</li> </ul>	